指差しの動作から、比べる中身へ。

2021年6月24日発表。物流・製造の現場での行動観察から考えた予防安全です。



当時観察した現場では

指差し確認を
していても、
不具合が起きていた。

原発表が着目したこと

比べる「正常な状態」の
具体的なイメージが、
共有されているか。

実行する人の経験・見方・負担を知り、確認に使う材料を整える。

人物場面は、当時の観察を読み解くための説明図です。

確認する対象と、その後の動きを組にする。

設備カバーを確認する説明用の例。実際の見本は、職場の承認済み資料を使います。

「確認した」と伝えた

「カバーを確認しました」

伝わったのは、
確認したという動作。

一緒に確かめること

見る対象：設備のカバー

比べる材料：承認済み写真・手順

違いを見つけたら：停止・報告

再開：定められた責任者が判断

何と比べ、何が分かったか。
違いがあったときの、定めた対応まで共有する。

実際の設備・作業の基準と手順は、責任者・専門家が定めます。

対策を整え、現場で使える材料へ。

厚生労働省のリスクアセスメントを前提に、現場での実行へつなぎます。

危険を減らす対策

法定事項を行い、低減措置を検討。

01 危険な作業の廃止・変更

02 設備による対策

03 管理上の対策

04 必要な保護具

→

対策を確認と報告へ

何を見るか

何と比べるか

止める条件と報告先

再開を判断する人

対策の内容を、現場で使う見本・条件・連絡先へつなぎます。

一次資料：厚生労働省「リスクアセスメント」

同じ指示でも、見ているものは違う。

評価する人、施策をつくる人、作業する人。役割ごとに、本人の話と仕事を確かめます。



評価する人

危険性と低減策を
確かめる。

施策をつくる人

見本・条件・判断者を
現場用に整える。

作業する人

何と比べ、どこで迷うか。
実際の負担も確かめる。

本人の言葉と手元の資料で、伝わった中身を確かめる。

現場の見本を、同じように捉えるために。

安全基準は職場で定め、その伝え方を考える二つの入口です。

教える準備をしたい

仕事を教える実践室

「うまく伝わっていない気がする」
など、近い気がかりを一つ。
短い例から、比べ方や相談先へ。

近い気がかりから見る →

同じ状態を共有したい

知と実践 No.327

会議の二つの終わり方を見比べ、
目指す状態と、必要な問いを
考えるところから。

二つの終わり方を比べる →

次の一歩は、いま使っている見本から。

承認済みの見本を開き、止める条件と報告先を本人と確かめる。

リクエスト株式会社｜request@requestgroup.jp

教材・教える準備の相談 →